



全国学校給食週間が始まります

| | 生徒 | 保護者 | 教師 | |
|-----|-----|-----|-----|-----------------------------|
| 1学期 | 61% | 94% | 44% | 左記の数値は、学校評価のどの項目を示しているでしょうか |
| 2学期 | 71% | 83% | 44% | |

1月24日～1月30日までは、「全国学校給食週間」です。日本では明治22年に学校給食が各日に広がっていきました。戦争の影響によって中断された時期もありますが、戦後、食糧難による子どもたちの栄養状態の悪化を背景に、昭和22年の1月から学校給食は再開されました。

現在の学校給食は、栄養補給という役割だけでなく、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために食育としての重要な役割を持っています。

さて、冒頭で示した数値は「生徒は好き嫌いせずに、残さず給食をとっている」という項目ですが、三者の認識に大きな違いがあります。子どもたちは好きな食材に偏りがあり、特に野菜や豆類【1月16日（火）のようなメニュー】、また、家庭では味わったことがない調理法で出された献立に苦労しています。もちろん中には、どのメニューでも配膳された分量（本人の申し出により調節しています）を気持ちよく完食する生徒も多いのですが、決められた時間内に食べることができなかつたり、偏食で残したりなど、毎日様々な様子が見られます。

2学期に実施した食育講話の様子でお知らせしたように、朝食抜きや不十分な食事内容で登校している生徒がおり、午前中の学校生活に支障（体調不良の訴え、集中できない等）をきたし、心配な面があります。

「食べること」は、からだ作りの基本であると同時に、一生続く楽しみでもあり、人と人とのつながりを深める手段にもなります。給食は、毎日温かいものが提供され、また、食材に様々な工夫がなされています。再度この給食週間では、学校で給食が始まった理由や現在まで継続している意義や提供されるまでに関わってくださっている方々への感謝を忘れず、また、自分自身の食習慣を見直す機会としてほしいものです。

1/15（金）の給食



ポークカレー・海藻サラダ

1/16（火）の給食



ポークビーンズ・ツナといんげんのソテー